

ベッセルスポーツクラブ

BESSERUNG

第 49 号

発行日 令和 03 年 06 月 02 日

発行者 河井 恵美



◇◇◇ 創立記念日特集 ◇◇◇

第 37 回創立記念日式典が令和 3 年 4 月 10 日土曜日 10 時より生涯学習センターホールで、出席会員 52 名、市より河村三鷹市長、大朝スポーツと文化部長にお出で頂き開催されました。

式典は、会長挨拶、会友の伊藤達也衆議院議員挨拶に続いて、河村三鷹市長のスポーツに関する三鷹市の取り組み等の講話。休憩を挟んで神奈川大学講師牧野紀子先生による市民スポーツに関する講演。クラブ 20 年在籍および 80 歳以上で 15 年在籍の会員に対する表彰と会長からの記念品が贈呈されました。

終わりに、この日が 90 歳の誕生日である最年長会員吉田ナツ子さんを、「ハッピーバースデー」の全員合唱でお祝いし、12 時に式典を終了しました。

◇ 会長挨拶 (第 37 回創立記念日に寄せて)

河井恵美

1985 年 4 月 10 日午前 10 時より、今は無き第一体育館 2 階の会議室で設立総会が開催されベッセルスポーツクラブが誕生しました。

年配の女性会員はラケットを風呂敷に包み自転車の荷台に隠すようにしてテニスコートにやっと来るといような時代でした。当初のベッセルは、市内の家に籠りがちな主婦や高齢者を対象にしたために、活動日はウィークデーの日中にしました。が、その頃、主婦が昼間にテニスをして遊んでいるなどとんでもないと非難された時代の中で、ベッセルは統合型の原型となった多種目型クラブを目指して活動を始めました。

ひとつのクラブに体育館やテニスコートなどの複数の施設は貸せない、という市の職員を相手に、これからの市民スポーツクラブが多種目型=総合型であるための必要性を、窓口を挟んで延々とやり合ったのも懐かしい思い出です。

初めてコロナで中止になった 36 回をはさんで、今年の創立記念日は会友の伊藤達也さん、三鷹市長の河村孝さん、大学講師の牧野紀子さんをお迎えしての講演会にもなりました。時を経て人も世の中も変わりました。ベッセルも更に成長するために、自分を知り、仲間を知り、ベッセルスポーツクラブを知るように努めてください。理念の中にある「お互いを支え合って」新しい石垣を一個一個積み上げてゆきたいものです。来年の 4 月 10 日は日曜日です。お忘れなく……。

◇ 会友挨拶

衆議院議員 伊藤達也

総合型地域スポーツクラブとは、子供から高齢者まで(多世代)、様々なスポーツを愛好する人々が(多種目)、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて

参加できる（多志向）、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブのことです。

スポーツ庁が総合型地域スポーツクラブの育成を始める10年以上前から、ベッセルスポートクラブは三鷹市で活動をしていました。そのため、先進事例として全国から注目されており、狛江市をはじめ、他の自治体においても「総合型地域スポーツクラブ」が次々と後を追って誕生しています。こうした長年にわたる地域でのスポーツ振興に対し、河井恵美会長は、文部科学大臣より令和2年度生涯スポーツ功労者表彰を受章されました。この表彰は、地域におけるスポーツの健全な普及及び発展に貢献した方に贈られるものです。

ベッセルスポートクラブの魅力は、どんな年齢でも、誰でも、長く楽しめるスポーツ活動が続けることで、地域の中で人と人との交流を深め、生涯の友人や仲間づくりができる点だと、会友として感じています。新型コロナで交流や接触が制限される今だからこそ、一層、地域で必要とされる存在です。今後益々の発展を祈念しています。



◇ 市長講和(要旨)

昭和52年、三鷹市に入庁し、教育委員会体育課に配属となって5年間を過ごしました。そこでは、三鷹方式と呼ばれる市民主導のスポーツ活動作り・組織作りをしていました。この方式で種目毎の組織が出来、次に種目別連合組織が出来ました。その頃の私は、次の段階として、コミュニティ・センターを中心に総合型地域スポーツクラブが出来ると想定していましたが、実際はそうはなりませんでした。

では、今なぜ、総合型地域スポーツクラブなのでしょう。当時は、全員がエリート選手になれるはずがないのに、あたかもなれるようなコースしかありませんでした。つまり、高齢者の方が、体力の維持・向上などを目的に様々な種目を楽しくやれるスポーツなどありませんでした。また、スポーツを通じたいろいろなつながりを目指すものもありませんでした。今、新型コロナ対策でスポーツ活動が制限され、改めてこのスポーツのもつ多様な価値や大切さが認識されています。

以前の体育館（第一・第二）を作った鈴木元市長は、スポーツ施設の使用料を無料にしました。しかし、若い頃の私は、スポーツができる環境を維持するために、有料化しました。

高齢化社会が進んだ今、それだけで良かったのかと考えることもあります。手軽に利用出来るよう施設を無料化するという意味も分かっているつもりです。しかし、今後、無料化するには、スポーツによる高齢者医療費などの削減効果の「見える化」などが必要となります。そこで、例えば、ボランティア・ポイント制を導入し、得たポイントを使用料に還元するという方法はどうか。

さて、当初配属された体育課は、市民が頻繁に出入りし、市と市民が対等に議論しスポーツ施策を進めていて、他の部門も同様と思っていましたが全く違っていました。体育課の配属は、私にとっては「原点」とでも言うべき得難い経験となっています。「スポーツと文化部」では、平成29年にオープンした「三鷹中央防災公園・元気創造プラザ」を多くの市民がスポーツ、生涯学習、福祉、保育により良く利用できるようハード・ソフトの両面から総点検を行っています。その中で今後のあり方を十分議論し、検討してもらいたいと思っています。

質問

スポーツ活動の環境改善のため、三鷹、調布、武蔵野、狛江にある民間等のテニス等のス

ポーツ施設を空き時間に利用できたら良いと考えるがどうか。

答)

50年前取り組んだことがあります。新川のテニスコートが半分になった時、一職員として何ができるかを考え、市内にある民間テニスコートを一つ一つ回りました。今も続けているものもあると思いますが、うまく所有者の理解を得ながら進めるのは、現在ではかなり難しいのではないのでしょうか。

◇ 牧野先生講演 (別冊 参照)

◇ 多年在籍者表彰

長年の間クラブを支えてこられたクラブ20年在籍および80歳以上で15年在籍の会員である、吉田ナツ子さん、木村裕子さん、伊藤佳子さん、坂下徳子さん、國澤嘉代子さん、有宗玲子さん、山内つぎ子さん、横山修さん、平栗徳雄さんが表彰されました。当日出席の該当者には壇上で会長からの記念品が贈呈されました。吉田ナツ子さんは会場に来る途中でのちょっとした事故をおしての出席でした。今回で新しく対象になったのは、山内つぎ子さん、横山修さん、平栗徳雄さんで、そのうちのお二方から、お言葉を頂きました。



左側から、平栗さん、横山さん、有宗さん、坂下さん、吉田さん、國澤さん、山内さん

いつまで活動続けられるの？ いつまでも BESSERUNG！ **横山 修**

早いものでベッセルスポーツクラブでのテニス歴が20年、正直こんなに永く続けられるとは思っていませんでした。

中年の頃、腕に痒みが続き、医者の診断が『スポーツで汗を流しなさい』という事でした。タイミングよく近隣のテニスクラブを見つけ週末のテニスが始まりました。

退職後はベッセルへの入会で活動が週複数回に増え、高齢の現在でも続いています。お陰でこれまで大きな病気はしてありませんが、最近では眼の老化現象もあって、空フリ、フレームショットもめだち、パートナーには迷惑をかける事が増えてきました。メンバーの皆様には感謝の気持ちがいっぱいです。

ベッセル活動が永く続けられたもう一つの楽しみがあります。活動の合間の仲間とのひと時です。コート周りの草花や樹木の季節の移り変わりをこまめに気づかせてもらえる事、最近では近隣の『自然探索や山歩き』へと発展させています。更に私にとっては好きな音楽や絵画など、相手を見つけておしゃべりができるのも永続きできている大事な要件か

も知れません。コロナ禍が治まり、例年の忘年会でのコーラスができるのを期待し、ベッセルスポーツクラブのますますの発展を祈っております。

ベッセルスポーツクラブ 37 周年創立記念日に寄せて

平栗 徳雄

ベッセルの 37 周年の集いが 4 月 10 日に行われた。「継続は力なり」だが、長期にわたり幅広い種類の活動を活発に展開、運営される河井会長始め役員の皆様の、並々ならぬ努力と団結があつての継続と思います。

式典では、私を含めて数人の方々が永年の会員として表彰された。15 年程前に三鷹市報の募集欄を見て入会させて戴き、後に何年か役員や会計監査を仰せつかったが大してお役に立てなかった記憶があり面映ゆい表彰でしたが、寄る年並相応に未だテニスコートでラケットを振っていることへの努力賞かなと納得し感謝しております、有難うございました。

コートでは皆私より若い仲間の中で右往左往だが、ベンチワークを含めて貴重な至宝のひとつ、遠くない限界を意識しながら、もう少し頑張ってみようと思います。

今後ともベッセルスポーツクラブの益々の発展を祈念しております。

◇◇◇ 総会報告 ◇◇◇

令和 3 年 3 月 26 日（金）三鷹市生涯学習センター4 階ホールにて、10 時より第 37 回総会が開かれました。当日は、会員数 136 名のうち、出席者 31 名・委任状 102 名、欠席者 3 名でした。

河井会長と東京都スポーツ文化事業団佐藤由夫氏の挨拶に続き、副会長の有宗さんの議長で議事が進められ、令和 2 年度の活動報告・決算報告・会計監査報告、令和 3 年度の活動方針・予算が拍手で承認されました。

令和 3 年度の各部役員・行事担当者と選出された本部役員は次のとおりです。1 年間、よろしくをお願いします。

◆本部役員◆

会長 河井恵美
 副会長 國澤嘉代子・有宗玲子・久保庄二・原 理恵
 相談役 八木育子・山口不二子
 会計 柴倉周子
 総務 石井美枝・小野純子・目黒直美・後藤テツ子
 広報 河内啓子
 監査 横山修・若井寿枝
 会友 伊藤達也

◆各部の役員◆

各部の役員	テニス	ソフトバレーボール	ロカヒ	ラウアエ	グラウンドゴルフ	パドルテニス	ヨガ	健康体操	吹矢
部長	寺沢	若井	馬場	蛭沢	渡会	石井	鈴木	山城	石井
副部長	横山	日野	千浦・桑島	大野	白良	村上	佐藤		目黒
会計	二ノ宮	廣田	倉内	小佐野	米村	宮川	中村	鮫島	目黒
広報	稲葉	岡村	桐谷	長田	牧野	松谷	竹内	東	目黒
指導責任者	寺沢	後藤有宗	岡部真美	ケアボール牛尾	目黒	鈴木	黒澤尚子	秋本つばさ 阿久津実穂	都築徳良

◆各部の行事担当者◆

行事 実施日	担当 役員	テニ ス	ソフトバ レーボ ール	ロカヒ	ラウアエ	グラウンド ゴルフ	パドル テニス	ヨガ	健康 体操
新人歓迎会 5月24日(金)	小野 後藤	高橋	中山	倉内	佐藤	渡会	西原	山崎	東
忘年会 12月11日(金)	有宗 柴倉	寺沢	日野	千浦	松本	米村	鈴木	池田	杉山
創立記念日 4月10日(日)	久保 河内	大山	横尾	桐谷	簗島	森田	藤巻	椎葉	杉山

◇◇◇ 各部の挨拶(展望・目標) ◇◇◇

テニス部

寺沢 弘治

新年度が始まった早々コロナの感染拡大により、テニスも新川コートが17日間、中学校のコートは5月一杯使用不可となりました。コロナ禍でも火・金のコートを確実に確保し、体を動かす機会を多くする事が、部員の健康の維持或いは体力の回復と多少の増進に役立っています。今年度もフルにコートを確保し、感染に気を付け活動する積りです。

もう一つは今年度から土・日・祝日の中学校でのテニスを、フルタイムで働く人との接点/窓口と考え有効利用する事です。フルタイムで働く人が平日のテニスに来る事はまず有りません。土・日元気な部員と時々でもテニスをすれば、ベッセルのテニス部が良く分かってもらえます。不定期の活動となりますが、部員としてテニスに参加してもらいます。

不定期テニスの目的は、部の年齢構成の改善と10年後も継続する為です。

ソフトバレーボール部

若井 寿枝

新年度が始まり、今まで参加を控えていた方も体育館に集まり、マスクしながら楽しく練習、これからという矢先に3回目の緊急事態宣言となり、スバル体育館から休館のお知らせ約1か月のお休みとなりました。コロナ禍の中で健康のために身体を動かそうといってもひとりではなかなか続きません。仲間がいることで時間を忘れて汗を流し楽しい練習が出来る事が本当に大切と実感しています。昨年同様、三鷹市ソフトバレーボール連盟の試合は未定ですが、練習再開しましたら火曜日仲間が集まり、いつものように賑やかにおしゃべりしながら和気あいあいとバレーボールをしたいです。

今年度も体調に気を付け無理せずケガなく、コロナに負けないよう感染対策をして明るく楽しく活動していきたいと思ひます。

グラウンド・ゴルフ部

渡会 寿男

新型コロナウイルスの感染拡大で、スポーツ活動の範囲が狭く厳しい。

2021年も小判塚公園広場が活躍の場所になります。コロナ対策～常備アルコール消毒液とマスクを完備。自己管理の徹底を計る。炎天下酷暑対策～緑に囲まれた公園、大木の生い茂る木陰利用(涼しい)塩飴&水分補給。荒地でのGゴルフはメンバー(12名+1名)の運動不足を補っています。

主役は12/11(土)第2回「室内グラウンド・ゴルフ交流会」です。昨年の体験を基に素晴らしい大会に、ベッセルの継続行事として内容を考慮中です。オリンピック後のアミノバイタルフィールドで各部の交流(出し物)も一考です。

メンバー全身体調管理に努め、3mu(ムダ、ムリ、ムラ)を無くして、思い切り楽しめる環境に心掛けます。来たれ～運動不足はGゴルフへ

フラダンス・ロカヒ

馬場 利恵

4月、新しくお迎えした岡部真実先生と新入部員2名が加わり、ワクワク感一杯で新年度のレッスンが始まりました。順調に進むかと思われましたが緊急事態宣言で活動が止まってしまいました。今は各々自宅で自主練習に励んでいます。

こんな時、創立記念日の牧野先生(ベッセルスポーツコラム連載中)の講演の中の一語を思い出します。「コートの外側が豊かなスポーツ文化を育てるのではないか…」そうなのです。ロカヒで言えば練習中やイベントで踊っている時はコートの内側、練習前後や水分補給時のおしゃべりは外側。ほんのわずかな時間でも次第に気心が知れてきて、楽しいやりとりに心が和みます。現在「コートの外側」は立ち話の状態。三鷹市行政への働きかけで、ベッセルの活動拠点の一つである元気創造プラザにおいて、ホールの活用等共有スペースの有効利用を提案していけば更に充実した活動になっていくと思います。同式典の河村市長の「元気創造プラザ総点検運動実施中で、外部の方を交えた検討会も予定しています。」との発言に期待感がふくらみます。

『フラ』は生涯スポーツとして取り入れやすいジャンルだと思います。指導して下さった歴代の先生方も「できる範囲で自分らしく踊るように」と。目標となる先輩方がおられるロカヒは全員で【目指せ生涯スポーツ】合言葉はIMUA=前進

パドルテニス部

石井 美江

今年度のパドルテニス部、緊急事態宣言が解除され4月9日から、活動拠点である高山小体育館が使用可になり、ジュニア4名を含む総勢22名でスタートしました。

今年度は副部長の村上昌江さんが練習メニューを組み立て、個々のレベルに合った練習方法を取り入れて、ジュニア・学生と幅広い年齢層で、世代の交流を楽しんでいます。

ジュニアからシニアまで、誰もがいつでもいつまでも楽しめるパドルテニス普及発展のために、みんなで力を合わせて頑張っていきます。他部の皆様にも、練習に参加頂いております。今年度もどうぞよろしくお願い致します。

お待ちしております♪

ハワイアンフラ・ラウアエ

蛸沢 秀子

日ごとに夏の気配が強まってきて、まさに素足で踊るフラにピッタリの季節がやって来た! と、嬉しい反面、制限されることが増え、人との出会いや交流が減り寂しい。

それでも、レッスンは和やかな雰囲気の中で、緊張感もあり笑いありで楽しく過ごしている。

新しい曲の練習に入ると、以前の曲をころり忘れてしまう。

だけど、覚えたり忘れたり、思い出したりの繰り返しが脳トレになっている。

二つ返事で受けてしまった部長ですが、私なりに慌てず、焦らず余裕を持ってマイペースで活動して行こうと思います。

ヨガ部

鈴木 敏義

部長になって4年目になります。3年で区切りとと思っていましたがまた続けさせて頂く事になりました。本年も宜しくお願い致します。4月より黒澤尚子さんが新しい講師になって頂ける事になり、前任者の山縣美保先生からの推薦ですので同様のレッスンを受けております。しかし昨年より続くコロナ禍で三度目の緊急事態宣言発令で本年度4月中旬から体育館が使用休止、黒澤先生に教えて頂いたのも僅か2回、部員数も昨年度は減少、本年度の第一目標は部員を増やす事。

ヨガは呼吸が大事とされています。(鼻から吸ってゆっくり鼻から吐く)
呼吸によって心身の緊張をほぐし、心の安定とやすらぎを得られます。
ストレス解消にベッセル会員の皆様も一緒に *「please give it a try」*

健康体操部

山城 八重子

今年度、健康体操部は12名でスタートしました。
今年も阿久津実穂先生に指導して頂いています。ステキなBGMを聴きながら
まずは固まった筋膜をテニスボールを使ってほぐしていきます。
肩こり解消や腰痛予防、骨盤の歪みをストレッチによって整えます。
終わった後は体が軽くなるだけでなく心も軽くなるような気がします。
健康体操部に入会してから体を痛める事がなくなりました。
木曜日の午後、ストレッチをしながらたわいのないお喋りは、私にとってとても良い時間です。これからもずっと続けていけたらと思っています。
今年も昨年同様、感染対策をしながら皆で協力してやっていこうと思います。

吹矢部

目黒 直美

月3回、火曜日10時から、市役所敷地内南側にある弓道場で活動をしています。コロナ禍の中、会員の減少、SUBARU 総合スポーツセンターの休館などがありましたが、一人二人と仲間を増やしていきたいと思っています。

今年度は、10月26日～11月16日の間の毎火曜日10時から12時までの4回の教室の開催を計画し準備しています。吹矢は「誰でも」「いつでも」「手軽に」「ゲーム感覚で楽しみながら」できます。また、スポーツウエルネス吹矢式呼吸法で様々な健康効果が期待できる種目です。

会員の皆様もぜひお友達を誘ってご参加下さい。

◇◇ ベッセル行事のお知らせ ◇◇◇

😊 新人歓迎会 😊

10月以降の開催で検討を進めています。詳細については追って連絡します。

😊 忘年会 😊

12月17日(金)開催予定です。皆さんの参加をお待ちしています。

😊 吹き矢教室 😊

10月26日から火曜日午前10時から12時全4回の予定で市民対象のスポーツ吹き矢教室の開催が予定されています。皆様、お友達を誘いあわせのうえ、ぜひ参加をお願いします。

😊 室内グラウンド・ゴルフ大会 😊

12月11日(土) SUBARU 総合スポーツセンターにて市民対象の大会を開催します。皆様お誘いあわせのうえ、ぜひ参加をお願いします。

☺ 第14回ベッセルフェスト ☺

令和4年1月23日(日)SUBARU 総合スポーツセンターにて第14回ベッセルフェストを開催します。詳細については追って連絡します。

◇◇◇ ベッセルスポーツコラム ◇◇◇

スポーツにおける男女の問題

私は今までどちらかというと男性が多数を占める所で生きてきた。ベッセルスポーツクラブに入ってはじめて女性が多数を占める集団に身をおいた。この逆転した雰囲気に対し戸惑い、少数である男性の存在が気になり、もう少し男性会員増えればいいのになどと思った。でも今は男性のみなさんの頑張りを感じつつも違和感なく過ごしている。

オリンピックでは最初女子の参加が認められなかった。マラソンも男子種目で1973年頃まで女性は参加できなかった。いまだに多くのスポーツ種目は男女別であり、学校体育の現場も男女別学で行われているところが多い。スポーツが男性のために考案され広まっていたことを考えるとそこに一つの差が生まれる根拠があることは認識する。男性と女性の身体の差、統計的に見た男性の筋肉量が女性より多いことも認める。しかしそれは差別の根拠にはならない。

家庭科が男女共学になった時に神奈川では体育も男女共学にした。その時の論拠にしたのが、生涯体育として行われている市民スポーツの多くは男女が和気あいあいと行っているという事実だった。生徒たちは体育学習で将来競技選手を目指す訳ではなく、生涯にわたってスポーツを楽しむことができるようにする事を目的の一つとする。そうであれば市民スポーツをモデルとして男女で楽しめるように授業も計画するべきである。その時私の頭にあったのは三鷹のクラブだった。神奈川で出来たんだからすぐに全国に広がると思ったがなかなかその壁は厚く、全国ではまだ男女別学が主流のようである。

そして新聞報道によれば、LGBT など性的少数者への理解増進法案の審議のなかで、ある議員がトランスジェンダーのM to F（体の性が男性で心の性が女性で女性として生きていくことを選択した人）が女子トイレを使うことや女子陸上に参加してメダルをとることに対して「バカげたことが」と発言したようである。

実際にアメリカでトランス女子が女子陸上の大会でメダルを取り、取れなかった女子選手が不当だと訴えたという事例があった。このことについて、昨年の授業で運動部に所属する女子の学生を交えて議論したことがある。授業に参加した運動部の女子も他の学生も「馬鹿げてる」とはいわなかったが「納得できないかな」とか、「それはない」、「なかなかむずかしいなー」と肯定的意見ではなかった。ベッセルのみなさんはどう考えますか。それはやっぱり平等ではないと考えますか？ それは誰に対して不当なのでしょう？

授業では、それなら逆にトランスジェンダーでもF to M すなわち女性から男性に転換した選手が男性のレースに出て負けるのはおかしいと考えるのでしょうか。と振って見た。もう少し明確にするためにその子が女子のチャンピオンであったとしたら。と条件をつけてみた。あれこれ議論する中で、「自分で男子になることを選び、男子として男子のレースを望んだのだから、しょうがないんじゃない」という答えになってきた。それでは元にもどして「男性から女性に転換した選手はどうなのかな」「自分で女子になることを選び、女子として女子のレースにでたら勝ってしまった。しょうがないんじゃない」にならないか。あれこれ議論する中で「自分たちに有利になる、すなわちトランスジェンダーの人にとって不利になることは認めるが、自分たちにとって不利になる、トランスジェンダーの人にとって有利になることは認めない」という構図が見えてくる。この辺りに差別というものが生まれてくる要素があるのではないかという結論になってきた。

このような議論の前に学生は性というものは単純に男と女(オスとメス)に分けられるものではなく男性要素と女性要素はグラデーション的に連続するもので、100%の男子要素や100%の女性要素で出来上がるものではない。完璧な女子や男子はいないということを学んでいる。

差別の構図というものはこんなに簡単なものではなく、とても複雑に様々要素や利害が絡みあっているものである。私は男女はあった方が面白いと思っている。でもその男女は集合的な現実として表すものでなく個々それぞれ違った要素であり、時には私たちもそれを乗り越えるすなわちトランスすることができる性であってほしいと思っている。

神奈川大学非常勤講師 牧野 紀子(グラウンド・ゴルフ部)

37回創立記念日 牧野先生講演録

ベッセルスポーツクラブとは

「自主的に・主体性をもって・自前で・継続する」をうたった市民スポーツクラブである。

ベッセルスポーツクラブは上流階級が集まるお金持ちのクラブではないし、Jリーグのような都市型クラブでもない。ましてや営利目的の商業クラブでもない。「みんなのスポーツ」を主催していた糸野 豊流に言えば「市民による・市民のための・市民のスポーツクラブ」すなわち民主主義を体現するスポーツクラブである。

総合型地域スポーツクラブの先駆けである。

1995年からの文部省の取り組みとして、打ち出された総合型地域スポーツクラブのあり方は「ライフスタイルとしてスポーツを楽しむ環境を地域に創出していくスポーツの組織作り」であり、「行政の介入を極力避けた地域住民主体による自主的な地域スポーツクラブ」そして「コミュニケーションを通じたスポーツによる公共圏を生み出す社会空間」としている。ベッセルスポーツクラブは文部省の取り組みの10年前からライフスタイル・自主性・公共圏の創造等同様の趣旨で活動を始めてきた。

ベッセルスポーツクラブの総合型地域スポーツクラブ度

2002年クラブネットが発表した「ジグソーパズルで考える総合型地域スポーツクラブ」ではその特徴及び方向性を次の10項目に整理した

- ①親睦と社交性を最優先しよう
- ②クラブの公共性とは何かを考えよう
- ③住民の自発的、自治的運営を目指そう
- ④日常の生活圏の会員を考えよう
- ⑤多世代の仲間を考えよう
- ⑥継続できるスポーツ活動にしよう
- ⑦メンバーシップの制度を確立しよう
- ⑧クラブハウスの所有を目指そう
- ⑨公共スポーツ施設の運営受託を目指そう
- ⑩地域住民の指導者を発掘しよう

この10項目からベッセルスポーツクラブを分析すると、①から④、⑥、⑦はベッセツの理念そのものであるが、⑤の多世代と⑧のクラブハウス⑨公共スポーツ施設の問題がクリアできていない⑤の多世代については出発が家庭婦人を対象としていたため若年層の組織化が弱い、高齢社会に対応する組織として評価できると考える。⑧のクラブハウスや公共スポーツ施設へのアクセスは方向性さえ全く見出せず、ここに多くの人的資源が投入されており、安定したクラブ経営の中で大きな不安材料である。⑩の指導者（インストラクター）に関しては地域住民だけでなくプロの指導者を活動に組み込みクラブがイニシアティブを

とっていく方式は一步進んだシステムと考える。

またスポーツ活動を成立させる3条件として提唱されている、クラブサービス・プログラムサービス・エリアサービスの観点から見てみる。

クラブサービスとは仲間作り、スポーツを一緒にする人たちをどう集めてくるかである。三鷹井方式は単に人を集めるだけでなくその人達を継続的に活動させていく、教室からクラブへという仕組みである。ベッセルの実践はまさにクラブサービスの成功例として全国に発進されてきた。次にプログラムサービス、これは、どのような活動をどのように展開し、クラブをどのように維持していくのかである。三鷹方式は単に人を集めてくるだけでなく体育指導員時代からその運営に携わる多くの人材の研修や経験を積み重ねてきた。それを受けベッセルはまさに行政から自立したクラブ経営をめざし、37年間クラブ内外での人材育成にも成功して今日に至った。最後にこのエリアサービス、活動の場所、打ち合わせ・交流の場所、道具や機材の収納や活動資料の保管。スポーツ活動のハードウェアの部分である。三鷹は大きな体育館ではなく地域ごとに施設を作るコミュニティセンターなどの施策もあったが、市民のスポーツクラブ経営とはうまく関連しておらず、ベッセルにとっても施設の問題が解決できない大きな課題である。

市民スポーツクラブが果たす社会的役割

——ベッセルスポーツクラブは社会の役にたっているのか——

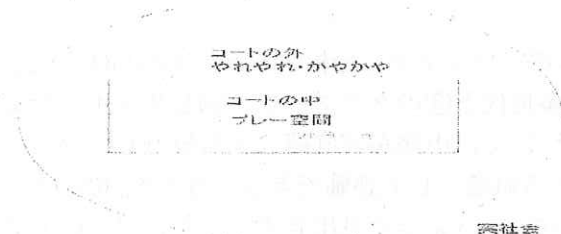
私たちは自分たちのクラブを見るときはたいていは自分たちの活動や仲間内のことに目が向きがちである。しかしもう少し視野を広げて、社会との関係を見る必要がある。

現代社会は都市化・核家族・高齢化など閉塞的で孤立的な社会である。人間関係がきわめて希薄な社会である。三鷹市もその例外ではない。スポーツクラブはその孤独な人間関係を解放する事ができる。クラブに入る→家の外に出る・スポーツをする→人と接する・会話する→コミュニケーションの成立→多彩な人たちとのコミュニケーション→豊かな人間関係→閉塞感・孤独感からの解放。すなわちスポーツ活動による公共圏の確立である。しかし、公共圏というダイナミックな構造は単独のスポーツクラブや商業的スポーツクラブではその確立が難しい。故にスポーツ集団であっても公共圏を確立するためにはベッセルスポーツクラブはチームではなくクラブではなくてはならないのである。

スポーツ集団がクラブである為のスポーツ空間論

～「コートの外」より愛をこめて（荒井貞光）～

コートの中と外



コートの中

ゲーム・プレー空間・・・何をするのか、目的がはっきりしていて やることが明確である。

チームの一員として自分を意識できる。(チームワーク)
ゲームに対してハラハラ・ドキドキ 緊張する

コートの外

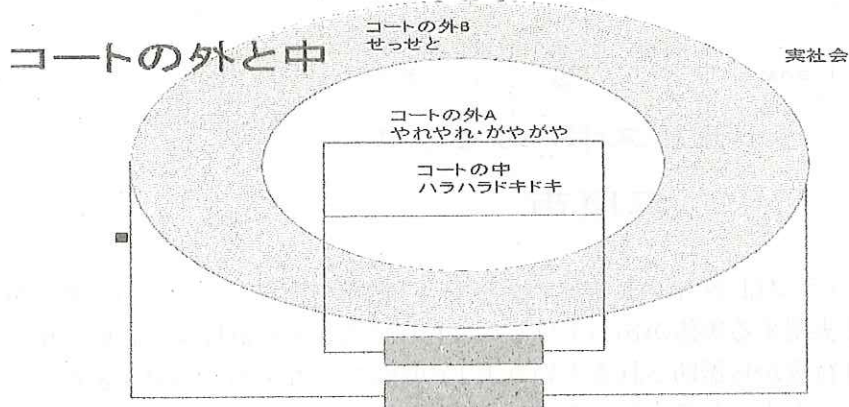


コートのサイド

おしゃべり

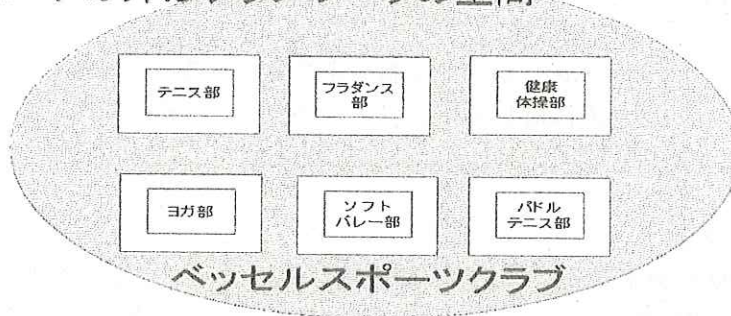
コートの外が豊かなスポーツ文化を育てる

荒井は「コートの中が喰うか喰われるか **take and take** の勝負の世界である」のに対し、コートの外は「リラックスした **give and take** の世界」だという。コートの外の **give and take** はいわゆる 1 : 1 のやり取りではなく、持ちつ持たれつ、互譲の場だという。和気あいあい・お互いに助け合い、協力しあっていく関係、決して割り勘の世界ではない共存の空間であるという。



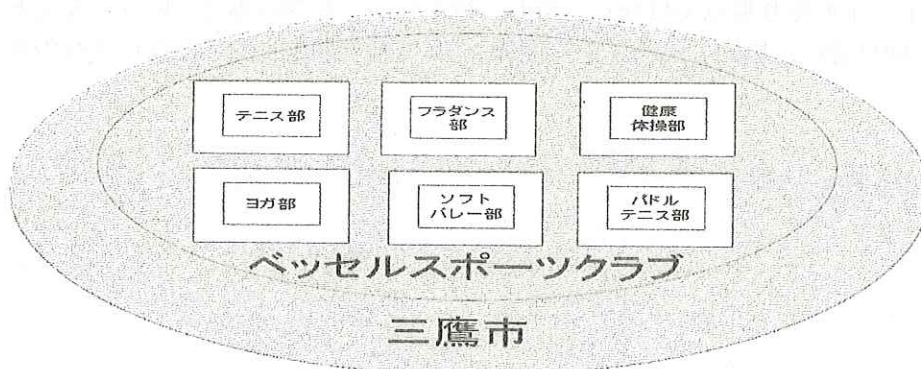
スポーツの世界ではチームワークという言葉がある。最近は一チームという言葉も聞かれる。しかし、チームワークはコート内での活動の連携を意味する。だとするとクラブにはクラブワークという言葉があってもいいのではと荒井はいう。それぞれの部が互いに尊重しあい連携し、しかも周流し、共有する。それによってチームではないクラブの形が出来上がり、自分たちのクラブ文化を創っていく。これがベッセルスポーツクラブである。

コートの外はクラブワークの空間



ベッセルの各部は独立していると同時に様々な情報で結ばれている。部長会で必要な情報は伝達されるし、全体で行われる行事には各部から担当が出て行く。広報誌も定期的に発行されている。また何より大きな特徴は自分の所属の部から他の部へいつでも参加できるということである。ベッセルスポーツクラブにはコートの中だけでなくコートの外のネットワークも密に存在し、チームワークではなく、クラブワークが充実しているといえる。

スポーツ行政というコートの外



ベッセルスポーツクラブは37年の長きにわたって、三鷹市の市民スポーツの一翼を担ってきた。政策はそれを実現する実態があってはじめて存在する。その意味でも行政と市民スポーツクラブの関係は行政から援助されるという上下の関係ではなく行政が提示する豊かな市民生活を実現するパートナーと考えるべきではないか。

三鷹方式というスポーツプランの上に築かれてきたベッセルスポーツクラブが37年以降どのように発展していくのかということは、単にベッセルスポーツクラブ単独の問題ではない。三鷹市のスポーツプランと深くかかわっている。全国で総合型地域スポーツクラブが推進されていく中、10年も20年も先行し、全国に市民スポーツのあり方を発進してきた三鷹が、三鷹という地域の公共圏を確立するスポーツ文化を育て実現する取り組みを策定し、実践していくことがベッセルスポーツクラブのこれからのあり方でもある。

ベッセルスポーツクラブ 牧野 紀子
(神奈川大学非常勤講師)